

# E-FIELD Home

Education For Implementing End-of-Life Discussion at home

## STEP 4

多職種および家族等も含め、慎重に  
本人にとって最善の方針について合意する

# 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。

心身の状態に応じて意思は変化しうるため  
繰り返し話し合うこと

## 主なポイント

本人の人生観や価値観等、できる限り把握

本人や家族等※と十分に話し合う

話し合った内容を都度文書にまとめ共有

本人の意思が確認できる

本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた、**本人の意思決定が基本**

人生の最終段階における医療・ケアの方針決定

・家族等※が本人の意思を推定できる

本人の推定意思を尊重し、本人にとって最善の方針をとる

本人の意思が確認できない

・家族等※が本人の意思を推定できない  
・家族がいない

本人にとって最善の方針を医療・ケアチームで慎重に判断

・心身の状態等により医療・ケア内容の決定が困難  
・家族等※の中で意見がまとまらないなどの場合

→複数の専門家で構成する話し合いの場を設置し、方針の検討や助言

STEP4

※本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性があることから、話し合いに先立ち特定の家族等を自らの意思を推定する者として前もって定めておくことが重要である。

※家族等には広い範囲の人(親しい友人等)を含み、複数人存在することもある。

# 学習目標

- ◆ 意思決定に関する推奨または提案を行う上での重要な点について整理することができる
- ◆ 異なる職種や立場をもつ者の視点や価値を尊重しつつ、合意形成を行うために必要なことが理解できる
- ◆ 本人の意思が確認できない状態において、本人にとっての最善の利益となる医療・ケアを多職種チームで考えるポイントを概説できる

# 本人の意思が確認できない状態において、 本人にとって最善の方針について考える

その1 療養環境が変わる場面

その2 本人の状態、環境が変わる場面

## 1. それまでの経過・物語を共有する

**医療チーム**：臨床情報）病気の状態・見通し・症状マネジメント

**ケアチーム**：くらしの情報）食生活等暮らしの情報、価値観、人生観

## 2. これからの医療・ケア・療養の方向性について コンセンサスを得る

- ・ 今後の医療・ケアの選択
- ・ これからの暮らしの再構築など…

➡医療・ケアチームとしての体験や成果を共有し、すり合わせ

できるかぎり  
のことをして  
あげたい。

医師

看護師

MSW

ST/PT

できるかぎり  
のことをして  
あげたい。

ケアマネジャー

できるかぎり  
のことをして  
あげたい。

できるかぎ  
りのことをし  
てあげたい。



# 各職種の視点

## 職種により何を大切にケアをするかの傾向が異なる

- 病院医師：『命を延ばす』事を重視する傾向が強い
- 病院看護師：『安全』を重視する傾向がある
- 訪問診療医/訪問看護師  
：『本人・家族等の希望』を優先する傾向
- 福祉職：『本人の希望』を重視する傾向がある  
『死』に対しては不慣れで慎重
- ソーシャルワーカー：本人の意思を代弁すること  
自体が仕事で、調整役。自律を重んじる傾向がある

**共通点は『本人の最善』を願っていること**

# 職種間の対立や葛藤による不利益

- 違いを個性として認めることは難しい
- 対立や葛藤を生じることは、できるだけ避けたい

## ◆よくあること

- ✓ 違い・対立が表面化しそうになると、言いたいことを我慢
- ✓ 空気の読めない人は仲間はずれにされる
- ✓ 声の大きい人に演説させておく
- ✓ 社会的に力をもっている人の意見を勝たせておく

こうした忖度によって

医療・ケアチームが機能しないと、誰が不利益を被るのか？



本人

# 多職種で行う対話で配慮すること

- 関係者それぞれが認識している状況について提示しあい、理解しあう
- 関係者それぞれが想定している目的（ゴール）を提示しあい、理解しあう
- 関係者それぞれが持つ意見の背景となる価値観や常識について提示しあい、理解しあう
- 関係者間の認識の相違が生む関係者の思考や感情に共感する
- お互いの認識や価値の相違を理解した上で、状況・目的・価値を調整する



# コンセンサス形成

- 「本人にとっての最善」を常に意識する
- 本人に関する事実認識が共通しているかを再確認する
- 関係者で共有されている価値観を見出す
- 「大まかなケアの方向性」と「具体的な選択肢の決定」を分けて議論する

圓増他、患者にとっての最善について、いかに合意するか  
*Modern Physician* 2016;36:411-4

# 大事な倫理原則

## ◆ 自律性原則

- ・ 本人の意思を尊重すること
- ・ 本人のプライバシーを尊重すること

## ◆ 与益・無加害原則

- ・ 本人の最善の利益を考えること
- ・ 本人のQOL維持・向上を目指すこと
- ・ 本人と家族等の脆弱性に配慮し共感的に接すること

## ◆ 正義・公平の原則

- ・ 接し方や待遇に差をつけないこと
- ・ 医療やケアの公共性と社会性を認識すること

➡医療・ケアチームの直観や感情、「こうして欲しい」という願望、今までこうして来たからという習慣で方針を決めてはならない。

➡倫理原則に照らし合わせて、丁寧な検討が必要

➡特定の職種のみならず、医療・ケアチームとして検討

➡本人の尊厳を守るために重要なこと

# 本人にとって最善の方針について合意する

- 倫理原則に照らし合わせて検討する
- 「本人にとっての最善」を中心に話を進める
- 医療・ケアチームを構成する多職種それぞれが認識している状況について、それぞれの立場で提示し合い、認識の違いなども含めて理解しあうことから始める
- 大まかな方向性を確認する
- 具体的な計画や、その後、本人・家族等との対話の進め方について議論する

# グループワーク

退院前カンファレンスの前に実施される  
多職種による事前協議の場をイメージ

## ● ディスカッションの目的

Step 3 で話し合った「京子さんの大切にしたいこと、これからの過ごし方への願い」の実現に向け、京子さんにとっての最善の方針について合意形成をし、具体的な医療・ケアの提案をする



- 1) 大まかな方針を決定する
- 2) どのような 医療・ケアを提供することができるかを話し合う
- 3) その後、本人・家族等との対話の進め方について議論する

※倫理原則に照らし合わせて検討し、本人にとっての最善」を中心に話を進める

※多職種それぞれが認識している状況について、それぞれの立場で提示し合い、認識の違いなども含めて理解しあう

# 4分割表での整理

## 医学的適応

- ・誤嚥性肺炎を繰り返している
- ・膀胱がん（術後、症状なく落ち着いている）
- ・嚥下機能低下（現在少量ミキサー食）  
→医師からは胃管からの栄養を提案されている
- ・飲食後は頻回な口腔内吸引が必要

## 京子さんの意向

- ・特に「暑い/寒い」「痛い/痛くない」等生理的なことについては、首を振ることにより意思表示が可能なことがある
- ・夫の最期の様子から、長さではない、生活の中で自分らしさを大切にしたい、サ高住で最期を迎えたい、穏やかに過ごしたいと話していた
- ・姪にこれまでの感謝を伝えたい、息子にも自分の願いを理解し、心穏やかに生きて欲しいと話していた

## QOL（京子さんの以前の言葉含む）

- ・食事の時は笑顔が見られる。
- ・特にコーヒーフレイバーを好む。
- ・吸引の時は、強く拒否するような反応が毎回みられる

## 周囲の状況

- ・息子は京子さんのことを心配しているが京子さんは姪をより頼りにしている。
- ・サ高住スタッフは、医療処置や看取りケアへの不安を抱えている
- ・息子はできるだけ長く生きて欲しい、姪は京子さんから聞いている希望を叶えたいと考え、意見が対立している
- ・息子は関わりが少なかったこともあり、京子さんの意向をよく知らない

# グループワーク時の3つのポイント

- 1) 各メンバーが考える本人にとっての最善の医療・ケアの違いを理解し、合意形成する
- 2) 各チームメンバーが考える本人にとっての最善の医療・ケアが同じである場合、客観的に、時には違う視点で検討してみる
- 3) 本人にとっての最善の利益となる医療・ケアを導き出すために必要な関わりについて、個別の意見の偏りを超えた方針をみつけていくプロセスとなるようなディスカッションにする。

➡ファシリの方は、ディスカッションの内容の記録をGoogleスライドにお願いします。



## 医療・ケアチームから本人、家族等に医療・ケアの方針について提案するときに配慮すべきこと

- 可能なかぎり具体的な内容にする
- 勧告や命令ではないことを本人や家族等に理解していただく
- 合意できていない事柄を尊重する
- その後のコミュニケーションや細かな計画についても言及する
- 本人に意思決定する力がある場合は、最終決断は本人のものである

# 本人の意思が確認できない状態において、 家族等が本人の意思を推定できない、または家族等がない場合 本人にとって最善の方針について考える まとめ

- 軸になるのは、常に「本人にとっての最善」  
➡ 倫理原則に照らし合わせて、「本人にとっての最善」を  
中心に多職種で、それぞれの視点から意見を出し合議で方針決定
- 医療・ケアチームのメンバーは、各々の見解や議論を理解できるよう努め、すべてのメンバーが受け入れられる  
提案を目指す。  
➡ 関わるすべての人の意見が何かしら考慮される形で、個別  
の意見の偏りを超えた方針をみつけていくプロセスが重要